

《 展示のご案内 》

展示期間 3月30日(木)まで

★メイン展示

『ゆるーり
ゆったりしてみませんか?』

日に日に温かさが増してくるこの頃。春はすぐそこまでやってきています。この時期、新生活に向けて準備している人も多いのではないのでしょうか。初めてのことにストレスを抱えてしまうこともあるかもしれません。心身をリラックスさせ、ゆる〜く生活してみてもいいですか。

- ・心も身体もリラックス
- ・新生活に向けて
- ・ゆるーい生活

という3つのコーナーを用意しました。



●メイン展示図書(抜粋)

「365日のしあわせ」「リセット上手な私になる」
「結婚一年生」「ひとり暮らしレスキューBOOK」
「ゆる晩ごはん」「ハッピーシニアの参考書」

忘れ物に注意

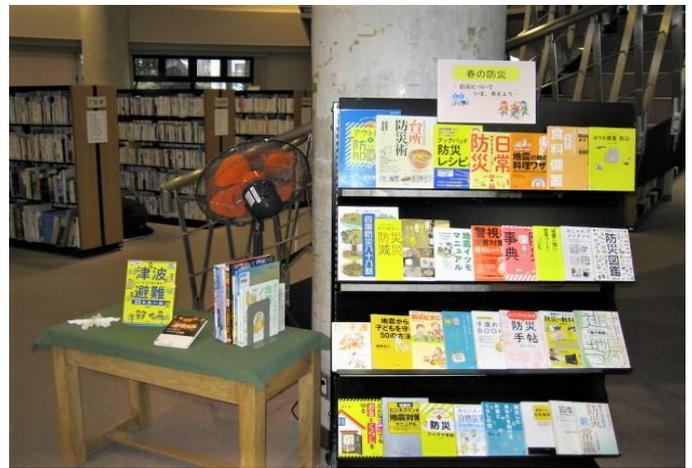
図書館での忘れ物について、窓口でお預かりしていますが、3月31日までに受け取りのない場合は処分させていただきますのでご注意ください。



★サブ展示

『春の防災』

東日本大震災から早くも12年。あの日の出来事を風化させず、春はご自身の防災への取り組みについて見直してみませんか。子供さんと一緒に考えてみたり、アウトドアしながら学んでみたり、色々な観点から防災について考える本を集めてみました。



●サブ展示図書(抜粋)

「アウトドアで防災BOOK」「子連れ防災手帖」
「シニアのための防災手帖」「震度7の生存確率」
「今日から始める本気の食糧備蓄」「台所防災術」

自動貸出返却装置を
導入しました

今まで窓口で貸出や返却手続きを行っていましたが、この機械を使えばご自身でこれらの手続きが行えるようになりました。人との接触機会を減らすとともに、本のタイトル等を見られたくないという方のプライバシーも守られます。

スーパーなどで見かけるセルフレジのようにバーコードを読み取ります。操作方法は簡単ですので、ぜひ一度試してみてください。

読んでみませんか？

-新着図書のご案内-

(一般)

いちごのお菓子づくり

今井ようこ 著
藤沢かえで 著
誠文堂新光社

今からおいしい季節になるいちご！

そんな旬のいちごを使って、お菓子づくりをしてみませんか？

卵・白砂糖・乳製品なしのナチュラルスイーツからフランス菓子ベースのエレガントなレシピまで、いちごの魅力をたくさん詰め込んだレシピ本を一度手に取ってみてください。

(児童)

モナ・リザとレオナルド・ダ・ヴィンチ 名画のひみつ

小林明子 監修
岩崎書店

人々の心を今も掴んで離さない名画『モナ・リザ』。その絵に秘められた謎に迫ります！

最大のミステリー、描かれている女性は誰？そのほほえみが神秘的に見えるのはなぜ？左右が違う？不思議な背景。など、名画『モナ・リザ』をわかりやすく解説！

あわせて、作者ダ・ヴィンチの生涯や時代背景、もう一つの名画『最後の晚餐』の紹介もあり、ルネサンス美術の理解を深める充実の一冊。大人が読んで新しい発見がいっぱいです。

(一般)

がらんどろ

大谷朝子 著
集英社

主人公は38歳の平井。

毎日代り映えしない日々を過ごしていたある日、仕事で知り合った4歳年上の菅沼にルームシェアを誘われ、女2人の共同生活が始まる。

恋愛、結婚、出産、家族…。普通から外れていく自分への不安を覚えずにはいらなかった平井が踏み出した一歩とは。

(児童)

だれもみえない教室で

工藤純子 著
講談社

6年生のクラスで起きた清也のランドセルに金魚のエサが入れられた事件。

いじめの加害者や被害者、周りで見ている傍観者や担任の先生など、様々な視点で物語が動いていく。

子どもたちが生きづらい現実に日々頭を悩ませて考え、思い悩んでいること。いじめられた側は大人になっても決して忘れないこと。

はたして大人たちの対応から導き出した子供たちの結論とは…？

※本の紹介文は、スタッフが作成しています。

英才教育と子どもの可能性

山下量子

先日、2月11日に、秋川雅史・夏川りみによるハートフルコンサートが宿毛市総合社会福祉センターで開催された。宝くじ文化公演ということもあって破格の安さのチケットは、すぐに完売だったとのこと。当日はたくさんの方が会場に来ていた。久々に賑わう宿毛市を見て、なんだか嬉しくなった。

会場は満席。N響団友オーケストラとともにステージに立つ2人の歌声に家族とともに酔いしれた。

夏川りみさんは高音がとても響き、美しい歌声で、おもに沖縄の歌を披露してくれた。その中でも彼女のヒットソング「涙そうそう」はやはりダントツにすばらしく、同じ石垣島出身のBEGIN作曲によるこの歌が、彼女は頭から離れず、「この歌ちょうだい」とお願いしたエピソードを話してくれた。確かに涙そうそうは、彼女のための歌と言っても過言はないだろう。

秋川雅史さんは、声というものは、ここまで体全体で出すものなんだというくらい、すごい声量で、オーケストラと一体になって、会場を包み込むほどのバイブレーションだった。能力の100%を出し切って、歌という愛を届けよう、というような意気込みを感じた。

私は秋川さんのそんな真摯な姿、トークの面白さや、後ろのオーケストラの人たちを常に立てる姿が素敵だなと思った。

秋川さんは、隣の愛媛県出身であることも親近感がわく。4歳よりバイオリンとピアノを始めたということで、声楽家の父の指導により後に声楽に転向したという。やはり音楽一家の英才教育が、彼の感性を育てたのだろう。

英才教育といえば、最近、外国人に勧められた本がある。30年間にわたって120万人以上の人々に読み継がれてきた、ソニー創業者・井深大の代表的著作「幼稚園では遅すぎる 人生は三歳までにつくられる!」という本だ。外国語にも翻訳されて出回っているようで、昭和46年が初版と言われているが、是非、読んで欲しいとのこと、恥ずかしながら初めて手に取った。

読んでみると面白い! 時間を忘れて読み進められるほどの面白さ。これが私の生まれる前に書かれたとは思えないほど、今でもすたれない内容に驚いた。今となれば常識になっているような話もあるが、それはおそらくこの井深さんのベストセラーの知識が世に浸透した結果であると感じた。さすが、外国人が勧めるほどの本である。

その中で、天才は遺伝ではなく幼少期の環境によるとの説が書かれてあった。三歳でピアノを演奏したというモーツァルトなども父親がとても教

育熱心で、その環境があったからこそ彼は才能が発揮できたというのだ。

その本には「三つ子の魂百まで」といわれるゆえんが、根拠とともに書かれてあった。

その根拠の一つに、ある研究が紹介されていた。ある時、シカゴ大学の学者がユダヤ人の子どもと、アフリカ人の子どもの知能指数を比較すると、ユダヤ人については平均知能指数が115だったのに対して、アフリカ移民の子どもは85と大きく差があったというのだ。それゆえに、当時は、人種や血統のよって知能は決まるとされていた。しかし、今度は別の学者がその結果をうけ、かなりの時間をかけて実験をした。それは、アフリカ移民の子どもをユダヤ人と全く同じ環境で育てるというものであった。すると四歳になるころには、アフリカ人の子どもも、ユダヤ人と同様に115という高い知能指数を示したのだという。それは、人種や血統に関係なく、生後の教育や環境によって、子どもの能力が決まるという根拠になる実験だった。

井深さんは、だからこそ、特に三歳までは子どもの好奇心に合わせて、さまざまな刺激をあげてことを推奨していた。逆に刺激がない部屋で育った子どもは知能指数が低くなるというのだ。まだ子どもだから漢字なんて分からないだろうと思っけていても、スポンジのようになんでも吸収する子どもの脳は、難しい漢字も形で覚えてしまうようで、音楽なども実はクラシックなどを好むという。言語も、例えその時、話せなくても、どんどん吸収して脳内に回路を作っているそうで、東京在住の夫婦が、転勤を理由に一年、田舎にあずけた赤ちゃんが後に言葉をしゃべれるようになったら、東北弁になっていたという話もあった。

そういえば私にはアメリカにいる従兄弟がいる。その従兄弟は、彼らの親よりも流ちょうに英語を話すものだから何故だろうと思っていたけれど、おそらくアメリカの環境で、幼児期に生きた英語に触れてどんどん英語を吸収していったのだろう。

井深さんの話では、無力の赤ん坊だからこそ、無限の可能性を持っていると言っていた。別に天才を育てろという意味ではなく、親が子どもの可能性を引き出してあげることが大切だということだ。

秋川雅史さんの親も、きっと四歳でバイオリンを習わず以前から、様々な才能育てをしていたのだろうと憶測する。子どもの可能性は親の意識次第で伸びしろがとてもあるのだなと思いついたことだった。

～新着図書のご紹介～

一般図書



- 0 「よくわかる最新サイバーセキュリティ対策の基本」 福田敏博
- 0 「エクセル&ワード&パワポ完全ガイド」
- 1 「みんなの宗教2世問題」 横道誠
- 2 「中国の歴史」 DK社
- 2 「好きを生きる」 牧野富太郎
- 3 「永田町政策マップ」
日本経済新聞社政治外交グループ
- 3 「検証ウクライナ侵攻10の焦点」 朝日新聞取材班
- 3 「不登校 - 親子のための教科書」 今村久美
- 4 「大陸はどのように動くのか」 吉田晶樹
- 4 「見わけがすぐつく野草・雑草図鑑」 山田隆彦
- 4 「教養としての精神医学」 松崎朝樹
- 5 「世界で一番くわしい木材」
「世界で一番くわしい木材」研究会
- 5 「宇宙の歩き方太陽系TRAVEL BOOK」 鈴木喜生
- 5 「土木現場実用語辞典」 藤田圭一
- 5 「木造建築用語辞典」 小林一元
- 6 「板目・柱目・木口がわかる木の図鑑」 西川栄明
- 7 「切り絵全集」 久保修
- 8 「漢字の動物苑」 円満字二郎
- 9 「地図と拳」 小川哲
- 9 「黄色い家」 川上未映子
- 9 「荒地の家族」 佐藤厚志

※左側の数字は図書の分類を表しています。
0...総記、1...哲学、2...歴史、3...社会科学、4...自然科学
5...技術、6...産業、7...芸術、8...言語、9...文学

児童図書



- 「ロボットは泣くのか？」 佐藤まどか
- 「音楽の著作権のひみつ」 杉谷エコ
- 「これからも、リッキーといっしょ」 片川優子
- 「未来の給食、なに食べる？」 楠木誠一郎
- 「農業をささえる生きもの図鑑」 谷本雄治
- 「ゲームを改造しながら学ぶScratchプログラミング
ドリル」 アソビズム
- 「こうすればきみも話せる」 鳥谷朝代
- 「だれもみえない教室で」 工藤純子
- 「天保の虹」 斉藤洋
- 「雪の日にライオンを見に行く」 志津栄子

絵本



- 「とうげのオイノ」 森元葉子
- 「国生みイザナギ イザナミ」 飯野和好
- 「ごみしゅうしゅうしゃのぼいすけくん」 正高もとこ
- 「キリムからの手紙」 桐山エツコ
- 「とんでやすんでかんがえて…」 五味太郎
- 「つきよのアイスホッケー」 ポール・ハーブリッジ
- 「どこでもタクシー」 鈴木まもる
- 「みかんきょうだいのたんけん」 ホソカワレイコ
- 「英語で読める『おおきな木』」
シェル・シルヴァスタイン

★このほかにもたくさんの図書が入っております。
図書館ホームページでは、月ごとの新着図書一覧を公開しておりますので、
そちらもぜひご覧ください。

3月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

4月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

開館日時 火～金 10:00～18:30 土・日・祝 10:00～18:00

ホームページ <https://www.city.sukumo.kochi.jp/docs-25/p010805.html>

メールアドレス tosyo@city.sukumo.lg.jp

は休館日



【図書館HP】

